

令和5年度 第1回「部活の未来を考える会」会議録

会議名	令和5年度 第1回「北九州市部活の未来を考える会」
会議種別	市政運営上の会合
日時	令和5年5月17日(水) 9時00分～10時30分
開催場所	小倉北区役所東棟8階812会議室(北九州市小倉北区大手町1番1号)
出席者	<p>[構成員] ※ 50音順敬称略</p> <p>上村 英樹、倉本 京子、古閑 明子、古森 利香、下田 功 新谷 麻美、園田 美恵子、園山 浩、高田 俊也、中附 博美 花田 佳子、松井 清記、森川 正和、和田 正人</p> <p>[事務局]</p> <p>教育長、教育次長、学校教育部長、部活動地域移行担当課長ほか5名</p>
次第	<p>1 自己紹介</p> <p>2 教育委員会挨拶</p> <p>3 説明事項</p> <p>(1) 北九州市部活の未来を考える会の目的</p> <p>(2) 本市の取組</p> <p>(3) 令和5年度スケジュール(案)</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 座長・副座長の互選について</p> <p>(2) アンケート調査について</p> <p>(3) 「少子化時代における部活動存続のための対応」について</p>
会議経過 (発言内容)	<p>1 自己紹介</p> <p>2 教育委員会あいさつ</p> <p>【教育長】</p> <p>皆様方には、大変お忙しい中、委員にご就任いただき、御礼申し上げます。部活の未来を考える会は、国を挙げて検討されている部活動の地域移行のあり方を検討していただくものである。部活動のあり方については、日本の中でも大きな転換点を迎えている。昨年度、スポーツ庁・文化庁の有識者会議より提言が出され、地域に段階的に移行するという大きな方針が出ている。また、ガイドラインの中には、まずは休日における地域の環境整備をすること、令和5年度から3カ年を改革推進期間とすること、そして、地域の実情に応じて可能な限り早期の地域移行実現を目指すことが盛り込まれている。こういった国の動向を受け、昨年度、本市でもモデル地域で実証を行っている。また、市内の140名の生徒を迎え、オンラインで協議会を開催し、生の意見を聞くとともに、各学校の教員にも意見を聞いてきたところである。部活動の地域移行については、生徒や保護者、教員だけではなく、地域の方々からの関心も非常に高い。本会議においては、国の提言の中にも盛り込まれている、休日の部活動のあり方などについて、具体的にご協議いただくとともに、少子化や指導者の確保あり方についても、ご意見をいただけたらと考えている。各委員のお立場から忌憚のないご意見をいただきたい。よろしくお願い申し上げます。</p>

○ 会議資料確認

3 説明事項

(1) 北九州市部活の未来を考える会の目的

【事務局】

令和4年6月にスポーツ庁、8月に文化庁の有識者会議より部活動の地域移行に関する提言がなされた。主な学校部活動の課題として、「深刻な少子化が進行しており、持続可能という面で厳しさを増していること」、「競技経験のない教師が指導したり、休日も含めた指導が求められたりするなど、教師にとって大きな業務負担になっていること」などが挙げられている。これら課題を受け、まずは休日の部活動から段階的に地域に移行すること、そして令和5年度から令和7年度末までの改革集中期間【そのあと12月には改革推進期間と改められました】と位置づけることが改革の方向性として盛り込まれている。また、各市町村において、協議会を設置し、地域移行のあり方やスケジュール等の検討を進めることとされている。提言及び、12月に国より示されたガイドラインを受け、本市でも部活動地域移行を検討するための会議「北九州市部活の未来を考える会」を設置することとなった。本会議の目的は、開催要項第1条にもあるように、「児童生徒がスポーツ、文化芸術活動に親しむ機会を将来にわたって確保すること」、「学校部活動から地域クラブ活動への移行に向けて、有識者等から幅広く意見を聴取すること」である。今後の会議において、「北九州市における部活動地域移行をどのように進めていくべきか」、「地域移行には様々な課題があるが、どのような解決策があるか」等を議論していただき、ご意見をいただきたいと考えている。

(2) 本市の取組

【事務局】

3つの取組みを紹介する。

1つ目は、部活動地域移行に関係するモデル実践である。本事業はスポーツ庁より事業委託を受け、5校5部活をモデル校として、実践を行ったものである。モデル実践の目的としては、休日の部活動の主体を外部の団体に移していくことを主とし、具体的には、教員ではなく、外部の指導者に指導等をゆだねること、平日の部活動との連携を図ること、施設の利用等環境を整えること、などを行ってきた。成果や課題については、生徒及び保護者、顧問、管理職に行ったアンケートを行った結果を少しご紹介したいと思う。「練習が楽しみになった」、「専門の方の指導はとても勉強になり、技術面はもちろんのことを、精神面も前向きになった」、「教員のワークライフバランスの推進に繋がる」、「顧問がいない場合は、廃部にせざるを得ないなど、毎年起こる課題を改善できると思われる」などの肯定的な意見をいただいた。課題としては、「欠席連絡等、個人情報との関係でスムーズに連絡することがなかなか難しい状況がある」、「顧問教員と外部指導者との連携がうまく取れなかった」、「けがや事故発生時の対応について、意識のずれが生じた」、「外部の指導員にも家庭や仕事があるため、学校の希望による急な予定の変更等に対応しにくい」ことが挙げられた。

2つ目は、職員研修である。全中学校教員を対象に研修を行った。事後の意見や感想では、「業務改善として非常に有効である。完全な移行を希望したい」、「専門的な指導が受けられるため、子供たちにとって非常にプラスである」と好意的な意見と、「教育的な面での指導を継続できるようなシステムを構築して欲しい」といった地域移行を心配する意見等があった。

3つ目はオンラインイベント「これからの部活動の話をしよう」である。市内14校、140名の中学生を対象に、現在の部活動の課題や困っていること、将来部活動がこんな形になったらいいなということについて、中学生に自由に意見を出してもらった。生徒が意見を述べている様子を短い動画にまとめていますので、ご覧いただきたい。

(動画視聴)

特に「部員が少なく思うような活動ができない」といった意見が多かった。また、もっと顧問の先生に練習を見てもらいたいという意見が多かったように思える。

(3) 令和5年度スケジュール(案)

【事務局】

今後、月に1回のペースで、全6回の会議を予定している。議事の内容は、部活動地域移行の柱となる「少子化時代における部活動存続のための対応」そして、「休日の学校部活動のあり方」「指導者の確保」である。また、指導者の確保については、スポーツ、カルチャーの関係団体より幅広いご意見をお聞きするため、各部会を随時開催し、各部会であがった意見を本会議の場で協議したいと考えている。部会については、関係団体にも参加していただき、幅広い意見が集約できたらと考えている。あくまで案であるため、議事の内容や各部会の進行具合によっては、前後することが予想される。

4 議事

(1) 座長・副座長の互選について

○ 座長の互選

【委員】

昨年度まで、部活動在り方検討委員会で委員長をしており、北九州市の流れや現状をよく把握されているとともに、外部の先進的な取組をよくご存知である九州共立大学の高田先生に座長をお願いしたい。

(承認)

○ 副座長の指名

梅光学園大学の倉本先生をお願いしたい。

(承認)

○ 公開非公開

【事務局】

「付属機関及び市政運営上の会合の運営及び委員等の選任等に関する要綱」第17条の規定により、会議は原則として公開することとなっている。な

お、公開しないことができる場合として、四つの規定がある。法令等に特別の定めがある場合、また、不開示情報、情報公開条例第7条に該当する事項を審議する場合、円滑な会議運営が損なわれる恐れがある場合、そしてその他非公開とすることに相当する理由がある場合である。

(承認)

(2) アンケート調査について

【事務局】

北九州市の生徒や保護者、教員の状況を把握し、今後、地域移行を行う上での参考にするため、アンケート調査を実施する。対象は中学生・中学校保護者・中学校教員、小学校高学年の保護者である。

【委員】

アンケートの実施予定はいつか。

【事務局】

6月上旬である。

【委員】

アンケート結果は公表するのか。

【事務局】

最終的な結果はホームページ上で公表する予定である。

【委員】

アンケートの結果をどう生かすかが大切である。結果はこうでしたというものにしてほしくない。

【委員】

教員向けのアンケートは、何が目的のアンケートなのかがわかる。しかし、生徒や保護者のアンケートは見えにくい。例えば、何のためのアンケートなのか説明文がつくとわかりやすいのではないか。今後、学校の部活動がどういう方向に進んでいくのかがイメージできるような文言を加えた方がいいと思う。

【委員】

新入生説明会の前に、小学校の校長先生から、多くの問い合わせが来ている。小学生が、中学校に進学したら部活がなくなるのではじゃないかと不安に思っている。もし部活動がなくなるのならクラブチームに入りたいという相談があるが、わからないとしか答えられない。今回、何のためのアンケートかがわかるような説明文をつけてほしい。

【委員】

学校名や区名を入れることで、地域の問題や部活動の数の問題等を捉えることが可能になると感じる。そして、地域移行の問題や連携部活動の問題を

含めながら、アンケート結果を合わせて公表する形の方が、より子どもたちに安心を与えられると感じる。

【委員】

地域移行に関するアンケートは、これが初めてだと思う。教員に対しても、子どもたちに対しても、「部活動を地域に移行して欲しいか」、それとも「これまでのように学校で部活動をやりたいか」という質問をしてほしい。国が決めていくのだからするしかないではなく、当事者の思いを大切にしたい。当事者である子どもたちと教員は、個人的な思いがある。

【委員】

兄弟が1年生と3年生におり、種目が違う場合も考えられるため、その取扱いを明示するべきである。

【委員】

教員アンケートで、「持ちたいか、待ちたくないか」を前提に、「なぜ持ちたいのか」という理由も質問してはどうか。

【委員】

現在、指導している先生方は、何かの資格を取得しているのか。どれぐらいの先生方が資格をもって指導をしているのかは知りたい。

(3) 「少子化時代における部活動存続のための対応」について

【事務局】

今回の議題が、「少子化時代における部活動存続のための対応」であるため、少子化の状況について説明する。全国の公立中学校の学校数と生徒数は、平成元年からの30年間で、学校数は1万578校から9479校と約1100個の減少。生徒数は、538万6134人から306万3816人の約230万の減少。1運動部あたりの参加人数は、平成19年には1部活あたり19.1人だったものが、令和3年には16.3人と、約3人減少。運動部活動参加者は45万594人減少。1中学校あたりの運動部活動の設置数は、平成19年の11.2部に対して、令和3年は11.3部とほぼ変わってない。これまでの推移をまとめると、子どもの数が大幅に減少しているが、1学校当たりの設置部活動数はほとんど変わっておらず、部活動が思うように成り立たないという現象が起こっているとなる。続いて、北九州市の状況である。生徒数は、平成元年4万5000人程度から令和4年度には2万2000人と約半数となっている。部員数は、平成元年約3万人から令和4年度約1万6000人と約半数となっている。部の設置数は、ほぼ横ばいとなっている。これらのことから、一つの部活動に所属する人数が減少していることが見て取れる。また、団体競技では参加人数に満たない場合や、ぎりぎりの人数で活動している部活動がたくさんある。最後に部活動への参加率は、平成3年度以降70%から75%程度を推移している。

【委員】

日本スポーツ協会等も複数種目を経験したほうが良いと打ち出している。いろいろな種目を経験することで、将来何かに絞った時の役に立つ。実際に、欧米では、夏に野球を行い、冬にアメフトをするという選手がたくさん出てきている。しかし、ガイドラインでは、平日4日、土日は1日と活動の制限がある。社会の仕組みがそうなっているからという理由で子どもたちの可能性を絶ってしまっているのか疑問である。動画の子どもたちの意見は、本当の生の声だと感じた。この会議の場が、それを変える場になって欲しいと思う。

【委員】

合唱や吹奏楽は、2、3人しかいない中学校では体験もできない。がっかりしている子どももたくさんいる。しかし、ある少人数の合唱部では、土日に他の学校と一緒に合同練習をすることで、大きなコンクールにも出場することができた。合唱や吹奏楽については、例えばパート練習を学校で行い、拠点校を作って合同練習ができるような体制をつくれば、子どもたちの体験の機会を確保できるのではないかと思う。少子化対策としてはそういう活動を模索するのも1つの方法かと思う。

【委員】

おそらく専門という考え方と、全国大会というのがネックになる。これは北九州市だけの問題ではなく、全国的な問題にもなると考える。リベロというレシーブ専門のポジションについて、中学校の時からずっとリベロで大学まで来た学生の中には、本格的にスパイク打ったことのない者もいる。その学生が、バレーボールの指導者として現場に出て行った時に、実は指導することができない。やはり、いろいろなスポーツに慣れ親しむことは必要であるし、それぞれの将来性を考えたときに、専門という言葉は、慎重に扱わないといけないのかなというふうに思う。

【委員】

中学校に入学する段階で1つの種目に絞ろうということで、子どもが1つを選んだ。しかし、専門的な指導を考えたときに、高校を見据えた判断というのもある。これは、子どもをもつ親としては考える部分でもある。子どもがダンスが好きと言っても、ダンスでは高校に行きにくいから趣味としてやったらどうだという意見も多い。

【委員】

保護者の意見はとても影響が大きく、保護者があの先生の指導は良くないとか、あの先生甲子園行ったとかをよく聞く。肩書で判断している。これは保護者の感覚も変えていかないといけない。部活動というのは何のためにあるのかという部分を保護者が認識しないといけない。高校受験等と切り離して考えなければ、教員が部活動をもてなくなる。

【委員】

おそらく部活動が衰退してきた理由の1つには、進学の問題もある。学校の生き残りという手段に使われてしまっている部分もある。学校の本来の目的ではないところで、部活動が使われている。公教育としてどういう形でこれから進むのかが非常に大きな部分でもある。

【座長】

以上で、本日の議事を修了する。